

---

# OB 通信

2008 年 No.3

(2008.5)

---

## 第 61 回東北学生陸上競技対校選手権大会

- ・ 男子十種競技で藤澤(4)が二連覇、全日本インカレへの出場権を獲得
  - ・ 男子 10000m で大場(2)が 2 位、男子棒高跳で白井(3)が 3 位に入賞
  - ・ 女子七種競技で菊地(3)が自身の持つ部記録を更新
  - ・ 男子砲丸投で今泉(3)が東北大歴代 3 位にランクイン
  - ・ 男子やり投で杉本(1)が東北大歴代 2 位にランクイン
- 

### ～目次～

- ・ 平成 20 年度春季三秀総会 (2 ページ)
- ・ 第 61 回東北学生陸上競技対校選手権大会 (3～18 ページ)
- ・ 副務からのお知らせ～OB 通信の電子メール配信について (20ページ)
- ・ 今後の予定 (20ページ)
- ・ 編集後記 (21ページ)

新緑の候、会員の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

今号では、平成 20 年度春季三秀総会、第 61 回東北学生陸上競技対校選手権大会の結果をお伝えいたします。あわせて、副務から OB 通信の電子メール配信についてお知らせいたします。

## #平成 20 年度春季三秀総会(4/22) 於 片平さくらホール

開会の後、まずは出席者一同で物故会員の方々に一分間の黙祷を捧げました。その後、佐藤会長、彦坂副会長、宮崎幹事長からそれぞれ挨拶がありました。

今回は、菅野幹事(H3 年卒)が議長に選出され、議事として三秀会東京支部長の牧野幹事(S41 年卒)から以下のような提案があり、話し合われました。

### 1. 三秀会東京支部長の交代と新たな幹事の推薦

支部長 川野部 修(S48 年卒)

幹事 柴田 清(S52 年卒)

幹事 渡辺 実(S54 年卒)

幹事 三浦 得雄(S60 年卒)

(交代時期 2008 年 6 月)

### 2. 東京支部から関東支部へ名称の変更

協議の結果、牧野幹事の提案が承認され、三秀会東京支部は三秀会関東支部と名称を改めました。また、川野部さんが牧野幹事から支部長の役職を引き継ぎ、柴田さん、渡辺さん、三浦さんの三名が新たに三秀会幹事となりました。

その後、新入部員の紹介と、小野寺顧問(S28 年卒)、眞山幹事(S56 年卒)、永田幹事(S63 年卒)、志賀幹事(H 元年卒)、菅野幹事、伊藤監督(H5 年卒)ら出席された幹事の方々からの挨拶があり、閉会となりました。

お忙しいところお越しいただいた会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

# 第 61 回東北学生陸上競技対校選手権大会(5/16～18) 於 宮城スタジアム

男子総合 第5位 53.5点 (T28点 (第7位) F17.5点 (第4位) D 8点(第1位))

女子総合 第9位 21点 (T14点 (第8位) F 2点 (第10位) H 5点(第4位))

今シーズン最初のメインレース、東北インカレが今年も宮城スタジアムにて開催されました。三日間とも天候に恵まれ、非常に良いコンディションの下で競技を行うことができました。

一日目は、男子 10000m 決勝に出場した齋藤(4)と大場(2)の大量 11 得点や、大場の 2 位入賞、男子棒高跳決勝に出場した白井(3)の 3 位入賞といった結果が光りました。

二日目は、男子 4×400mR 予選での力走や、男子 400mH 予選に出場した細川(M2)と柴田(3)の決勝進出を決めた好走により、初日振るわなかった短距離パートも勢いがつきました。また、男子砲丸投に出場した今泉(3)が東北大歴代 3 位、男子やり投決勝に出場した杉本(1)が東北大歴代 2 位の記録を樹立し、投擲パートも素晴らしい結果を残すことができました。そして、何より男子十種競技に出場した藤澤(4)の二連覇と、女子七種競技に出場した菊地(2)の部記録更新という混成パートの結果が最も目立ちました。

三日目は、男子 400mH 決勝に出場した細川と柴田、女子 5000m 決勝に出場した永井(4)と大淵(4)、男子 5000m 決勝に出場した齋藤(4)と大場(2)など、同種目で複数人が得点する競技が多く見られました。また、学友会応援団の方々が応援に駆けつけて下さり、最終日に応援がよりいっそう盛り上がりました。

結果、男子は昨年から変わらず総合 5 位となりましたが、4 位の福祉大に 40 点以上の大差をつけられてしまいました。女子は、昨年よりも 7 点多く獲得し、順位を一つ上げ総合 9 位となりました。お忙しいところ応援に来て下さった会員の皆様には心より御礼申し上げます。



写真：閉会式後、トラックにて記念撮影

## トラック

### 男子十種競技 100m

#### 2位 藤澤 鐘吾 (4) 11"43(-0.8)

二連覇に期待がかかる藤澤の競技で今年の東北インカレはスタートしました。

藤澤は抜群のスタートで先頭に立ちましたが、中盤でのもうひと伸びが足りず、後続に捕えられました。

11"43で2位となり、二連覇に向けてまずまずのスタートを切りました。

### 女子七種競技 100mH

#### 4位 菊地亜加里 (3) 17"46(-1.4)

七種競技には、昨年7位の菊地が出場しました。

3台目以降他の選手からやや遅れ始めてしまい、後半もスピードが上がりきらず厳しい展開となりましたが、大きな失速もなくフィニッシュしました。

17"46で4位となり、昨年からのランクアップにつながる好発進となりました。

### 男子 1500m 予選

1組 11着 本間 亮太 (2) 4'11"34

1組 14着 渡辺 貴哉 (4) 4'18"95

2組 7着 早坂 達也 (2) 4'11"58

1組目には渡辺と本間が出場しました。二人とも集団の中ほどに位置取り、順調なスタートを切って400mを65"前後で通過しました。集団は、徐々に縦長になりながら800mを通過したところでややペースアップしました。本間はこれにうまく反応しましたが、渡辺は集団から離されてしまいました。ラスト400mとなったところで本間も先頭集団

からこぼれてしまい、終盤は苦しい展開となりましたが、本間が4'11"34で11着、渡辺が4'18"95で14着となり、二人とも見事自己ベストでフィニッシュしました。

2組目には、早坂が出場しました。集団は、400mを67"~68"とやや遅めのペースで通過しました。その後もスローペースのまま集団は崩れず、位置取りが難しい展開となる中、早坂は落ち着いて集団の後方につけてレースを進めました。ラスト一周の鐘が鳴ったところでようやく集団は崩壊しましたが、早坂は先頭集団につくことができずに第二集団の中ほどにとどまりました。それでも、ラストはしっかりとスパートをかけて4'11"58で7着となり、自己ベストでフィニッシュしました。

結果、出場者全員が自己ベストを記録しましたが、決勝進出争いには絡むことのできない厳しいレースとなりました。

### 男子 100m 予選

1組 4着 八木 洋光 (M1) 11"50 (-2.0)

2組 3着 青柳 光裕 (M1) 11"62 (+0.5)

3組 4着 佐藤 圭祐 (4) 11"32 (-1.9)

1組目には、八木が出場しました。スタートでやや出遅れてしまいましたが、その遅れを取り戻すべく、中盤以降徐々に加速していき、11"50で4着となりました。

2組目には、青柳が出場しました。右脚に不安を抱えての出場となりましたが、それを感じさせないリラックスした走りを見せました。中盤以降の大きな伸びで前方の選手を次々と捕え、11"62で3着となりました。

3組目には、佐藤が出場しました。先日の強化記録会での自己ベストの走りと比較す

ると多少軽快さを欠いていたものの、持ち前の力強いストライド走を発揮し、中盤以降は自己ベスト時に近い良い動きを見せ、11"32で4着となりました。

結果、準決勝、決勝と進むことを期待されていましたが、残念ながら三人とも予選落ちとなってしまいました。

### 男子 400m 予選

1組3着 田中 裕志 (4) 51"27

3組6着 高林 佑輔 (1) 50"96

4組5着 佐藤 圭祐 (4) 51"52

1組目には、田中が出場しました。スタートからスピードに乗りましたが、100mを通過したあたりから上体がぶれ、ストライドがやや小さくなったように見えました。しかし、落ち着いて先頭の二人を追い、200mから切り替えてスピードと伸びのある大きな走りを見せ、51"27で3着となりました。

2組目には、高林が出場しました。落ち着いたスタートを切るも、前方の選手にやや離されてしまいました。細かくピッチを刻み、徐々にスピードを上げていきましたが、上体にやや力みが見られました。結果、50"96で6着となり、今後受験期のブランクを埋めてからの大活躍が期待されます。

3組目には、佐藤が出場しました。スタートから大きく飛び出すと、ストライドの大きさを活かしてスピードを上げ、そのままバックストレートに入りました。しかし、ラスト100mで疲れが出てしまい、51"52で5着となりました。

この種目でも東北大からは決勝進出者が出ず、残念な結果に終わってしまいました。

### 女子 10000m 決勝

6位 大淵 真波 (4) 39'22"35

棄権 永井 瑞希 (4)

棄権 千葉絵里子 (2)

大淵のみの出場となりましたが、高得点獲得が期待される種目でした。

スタート直後から福島大の古瀬選手が一人飛び出るも、後方では大集団が形成されました。大淵は、1000mを3'40"前後で通過すると、2000m手前から第二集団の先頭となりました。3400mあたりから第二集団は縦長になり、大淵は前方の福祉大の三選手を追う展開となりました。5000mを19'05"くらいで通過すると、6番手での単独走となりました。終盤は、時折風が強く吹き、5番手の選手との差も徐々に広がり、苦しいレースとなりました。必死に前を追うものの、順位は変わらず39'22"35で6位となりました。

3点を獲得し、上々の結果となった一方で、真の実力を発揮しきれずに悔しい結果ともなったようでした。

### 女子 1500m 決勝

13位 千葉絵里子 (2) 5'17"35

15位 小海 麻美 (2) 5'26"12

千葉と小海の二年生コンビの出場となりました。

スタート直後は、千葉が集団の中ほど、小海が集団の後方につけてレースを進めました。400mを通過したところで小海が後退し、集団も二つに分かれました。千葉は前方の集団で粘りましたが、1000mを目前にして集団からこぼれてしまいました。ラスト400mとなっても、二人ともなかなか順位を上げることができず、千葉が5'17"35で13位、小海が5'26"12で15位となりました。

二人とも、ベストの記録では得点争いに絡めるほどの実力を持っているので、今後の活躍に期待したいところです。

### 男子 10000m 決勝

2位 大場 直樹 (2) 31'42"51

5位 齋藤 純 (4) 31'51"72

14位 島田 健作 (4) 33'08"37

二大エースの齋藤と大場、安定した走りに定評のある島田の三選手の出場ということで、大量得点獲得が見込まれていた種目でした。

スタート直後は、齋藤が集団の前方、島田が集団の中ほど、大場が集団の後方につけてレースを進め、三人とも 1000m を 3'10"前後で通過しました。齋藤は終始集団の先頭に立ち、大場は集団内で徐々に順位を上げ、二人とも 16'00"を切るくらいで 5000m を通過しました。一方、島田は 3000m を通過したあたりから後退し始め、4000m 過ぎで集団から離れてしまい、16'10"で 5000m を通過しました。8000m を目前にして集団から福祉大の三選手が飛び出し、齋藤と大場がすかさずそれを追いました。大場が 4 番手、齋藤が 5 番手でラスト 1000m となり、応援席が俄然盛り上がる中、ラスト 100m で大場が猛烈なスパートをかけて一気に二人を抜き去り、自己ベストの 31'42"51 で 2 位となりました。齋藤も必死のスパートを見せましたが、順位を上げるにはあと一步及ばず、それでも自己ベストの 31'51"72 で 5 位となりました。島田は、後方から追い上げてくる選手とともに前を追いましたが、終盤は苦しい単独走となり 33'08"37 で 14 位となりました。

11 点という大量得点によって、13 点獲得という当初の中・長距離パートの目標は無きに等しいものとなり、残る二日間に向けて大

きく勢いがつきました。

### ☆ 選手より一言

今回の東北インカレでは、多くの部員の、インカレにかける熱い思いを感じることができたと思います。

東北大学の代表として出場することへの重圧、誇りが、競技をしている選手から伝わってきました。また、選手を見守り応援をする部員からも、まるで自らも競技に参加しているかのような必死さが感じられました。

私個人としては、選手として出場するのは初めてでしたが、予想以上の結果を残せたと思います。特に 10000m では、私が表彰台に登ることになるとは思ってもいませんでした。これも、多くの方の応援があつての結果だったと思います。

また、今回の東北インカレは、他の大学との力の差を感じさせられた大会でもありました。これから先、大会はまだまだ続きますが、より高いレベルでの競技ができるよう、日々の練習に励んでいきたいと思っています。

大場 直樹



写真：男子 10000m の表彰

### 男子 4×100mR 予選

2組 4着 42"37

[柴田智弘 (3)・佐藤圭祐 (4)・

八木洋光 (M1)・神林啓人 (4)]

第一走者の柴田は、周囲の流れに乗るような順調なスタートを切り、前を行く選手からやや離されたようではあったものの、落ち着いて第二走者の佐藤へバトンを渡しました。

佐藤は、ストライドの大きいのびのびとした走りで加速し、うまくスピードに乗りました。バトンパスもスムーズに決まりました。

第三走者の八木は、序盤から力強い走りで前に飛び出しました。しかし、第四走者の神林へバトンを渡す際、ややつまってしまったようでした。

神林は、バトンパスでのロスの影響か、やや伸び悩んでしまったようでした。最後は辛くも逃げ切って 42"37 で 4 着となりました。

大きな余裕を見せることはできなかったものの、確実に決勝へつなげることができました。

### 女子七種競技 200m

5位 菊地亜加里 (3) 28"37 (-1.8)

順調なスタートを切り、コーナーで徐々にスピードを上げていきましたが、最後はいまひとつ伸びることができず、28"37 で 5 位となりました。

一日目の競技を終えたところで、2058 点で 4 位となり、二日目の競技の結果次第では表彰台も狙える位置につけており、大きな期待が寄せられました。

### 男子十種競技 400m

6位 藤澤 鐘吾 (4) 53"39

スタートは順調だったものの、バックストレートではなかなかスピードが上がりませんでした。そのままホームストレートに入り、ラストスパートをかけましたが最後まで伸びることができずに 53"39 で 6 位となりました。

一日目の競技を終えたところで、3490 点で 1 位となり、二連覇を射程圏内に捕えたものの、2 位の選手との差は 80 点と油断できない展開となりました。

### 男子十種競技 110mH

3位 藤澤 鐘吾 (4) 15"73 (±0.0)

二日目のトラック種目も十種競技からのスタートとなりました。

一日目を 1 位で折り返した藤澤は、スタートこそ良かったものの、3 台目以降他の選手から徐々に離されました。しかし、リズムは全く崩れることなく、終盤で粘って 15"73 で 3 位となりました。

### 男子 110mH 予選

1組 7着 一ノ倉 聖 (2) 16"07 (+1.6)

3組 3着 永井 雅人 (D1) 16"13 (-0.4)

棄権 岩崎 辰哉 (2)

1 組目には、一ノ倉が出場しました。スタートから出遅れてしまい、インターバルの走りは上々でしたが最後まで遅れを取り戻せず 16"07 で 7 着となりました。

3 組目には、この春入部した永井が出場しました。中盤までは遅れていましたが、リラックスした走りで徐々に追い上げを見せました。他選手の転倒もあり、2 番手の選手にあと一步のところまで迫りましたが、差しきれずに 16"13 で 3 着となりました。

活躍が期待されていた岩崎が怪我のため棄

権してしまったことや、決勝にはつなげられなかったことなどが悔やまれましたが、一ノ倉の自己ベストの走りが明るい結果として光りました。

### 男子 200m 予選

2 組4 着 田中 裕志 (4) 24"26 (-2.8)

5 組2 着 八木 洋光 (M1) 23"60 (-2.0)

棄権 青柳 光裕 (M1)

2 組目には、田中が出場しました。出足は良く、コーナーもうまく加速できていましたが、後半は向かい風の影響からか、伸びを欠いてしまい 24"26 で 4 着となりました。

5 組目には、八木が出場しました。得意のコーナー走で一気に加速すると、そのままグングンとスピードに乗っていきました。直線に入ってからその勢いは衰えず、23"60 で 2 着となり、準決勝進出を決めました。

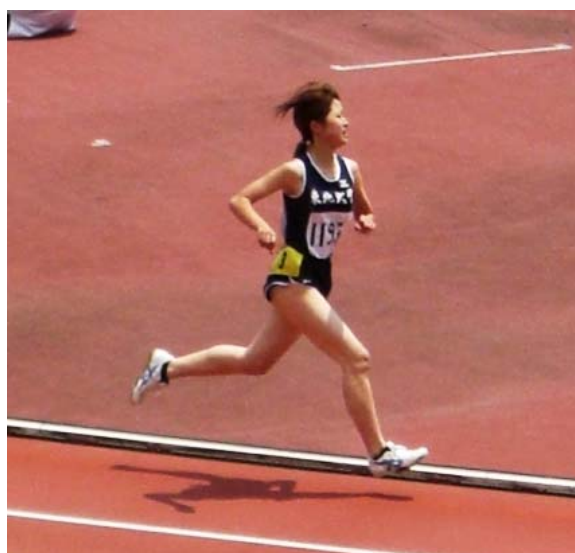
残念ながら、青柳が怪我のため棄権してしまいましたが、八木の準決勝につながる走りによって短距離パートは勢いづきました。

### 女子 800m 予選

1 組 8 着 須藤 彰子 (3) 2'47"97

この春医学部陸上競技部から入部してきた須藤が出場しました。

先頭にはついていけないものの、スピードに乗りいい動きで 7 番手につけて 200m を通過しました。300m から 400m あたりで疲れが出始め、400m をおよそ 74" で通過しました。400m を通過した後で大きく失速してしまい、後方の選手にかわされました。ラストも失速を抑えきれずにスパートがきかないままのフィニッシュとなり、2'47"97 で 8 着となりました。



写真：女子 800m、須藤のラスト

### 男子 800m 予選

1 組 3 着 本間 亮太 (2) 2'01"82

3 組 6 着 寺川 亮 (4) 2'04"44

1 組目には、本間が出場しました。順調なスタートを切り、2、3 番手で 200m を通過しました。その後、集団の中ほどで囲まれてしまい、あまり良くない位置で 400m をおよそ 60" のスローペースで通過しました。400m 手前あたりから一旦後方に下がり、落ち着いて様子を見ながら 600m を通過しました。ここで先頭がスパートをかけ始め、本間もそれに対応しようとしたのですが、一歩及ばず 2'01"82 で 3 着となりました。

3 組目には、寺川が出場しました。スタートでやや出遅れたように見えたのですが、すぐに持ち直して 5 番手で 200m を通過しました。400m を目前にして 6 番手に後退しましたが、良い位置と良い展開でレースを進めました。600m あたりまではスパート次第で期待できる展開でしたが、ここで 1~3 番手と 4~6 番手の二つの集団に分かれ、以降失速してしまい 2'04"44 で 6 着となりました。

今回は残念な結果に終わってしまいましたが、壮行会で掲げた「今年は中距離パート



復活の年」という目標に向けての中距離パートの今後の活躍に期待したいところです。

### 女子 400mH 予選

#### 1組 5着 星 朝香 (3) 72"60

1組目に星が出場しました。スタート直後にペースを落としたように見え、1台目に向かってペースを上げていく他の選手と大きく差がついてしまいました。その後は、予定していた歩数で刻めたようで、終盤まで目立った乱れもなく 72"60 で 5着となりました。

自己ベストの走りであれば決勝に進出できただけに、悔やまれる結果となりました。

### 男子 400mH 予選

#### 1組 2着 柴田 智弘 (3) 56"06

#### 2組 2着 細川 淳一 (M2) 55"28

#### 3組 5着 加藤 聡 (4) 59"01

1組目には、柴田が出場しました。持ち前の軽快な走りでスタートから飛び出し、200m あたりまでその勢いを持続させました。しかし、第3コーナーでややペースが落ち、危ない展開となりました。ラストは、混戦の末 56"06 で 2着となり、粘り勝ちで決勝進出を決めました。

2組目には、細川が出場しました。スタート以降、5台目あたりまで激しいトップ争いを繰り広げ、6、7台目あたりでついにトップに躍り出ました。ラスト 100m でペースが落ち、後方の選手にかわされてしまったものの、55"28 で 2着となり、柴田に続いて決勝進出となりました。

3組目には、加藤が出場しました。2台目ではぴったり合っていたものの、ほとんどの障害で歩数の合わない様子が見られました。障害の前後での減速が重なり、59"01 で 5着

となりました。

細川と柴田の決勝進出によって、短距離パートの勢いはさらに加速しました。

### 女子 100mH 決勝

#### 7位 星 朝香 (3) 18"07 (-1.5)

向かい風の中、インターバルをうまく刻めずになかなかスピードに乗り切れない様子でした。中盤で前方の選手を捕えることはできたものの、終盤の障害を三步でクリアできず、順位を上げられないまま 18"07 で 7位となりました。

確実に得点を獲得できる一発決勝のレースだったとはいえ、貴重な 2点を獲得しました。

### 男子 3000mSC 決勝

#### 2組総合 6位 川口 亮平(M1) 9'37"28

#### 2組総合 10位 平 聖也(3) 9'50"22

#### 2組総合 17位 箭内 正輝(2) 10'08"95

川口、平、箭内の三選手が出場しました。スタートすると、三人とも集団の後方につけました。その後、先頭との差が徐々に開き始めてしまい、1000m 通過時点で先頭集団から約 50m 離れて川口が 9番手、平、箭内が 12、13番手となりました。川口は、2000m を目前にして 7番手に浮上し、平も 9番手となり、入賞ラインが見えてきました。一方、箭内は最後尾となって苦しい展開となりました。ラスト一周から川口がスパートをかけて 6番手まで上がり、自己ベストに近い 9'37"28 で総合 6位となりました。平は、終盤で伸びきれず 9'50"22 で総合 10位となりました。箭内は、終盤で追い上げを見せましたが、得点争いに絡めず 10'08"95 で総合 17位となりました。

インカレで初得点を挙げた川口は喜びを隠しきれない様子でした。平は得点には一歩及びせんでしたが、今後に期待できる良い内容のレースでした。

### 男子 4×400mR 予選

1組 3着 3'19"96

[細川淳一 (M2) ・田中裕志 (4) ・  
中嶋啓太 (M1) ・柴田智弘 (3)]

全走者とも上々な走りを見せ、特に第三走者の中嶋の動きの良さが際立っていました。

結果、3'19"96 で3位となり、余裕で予選を通過することができました。予選の走りの様子から、表彰台に向けて期待が高まりました。

### 女子七種競技 800m

7位 菊地亜加里(3) 2'46"73

総合4位 (3545点)

スタートから6番手につけてレースを進めました。400m 通過以降疲れが出始め、徐々にペースダウンしてしまいました。ラスト 200m を目前にして後方の選手にかわされて最後尾となり、ラストもスタミナ切れでスパートがきかず、2'46"73 で7位となりました。

結果、表彰台には届かなかったものの、3545点で総合4位となり、自身の持つ部記録を3527点から3545点に更新しました。

### 男子十種競技 1500m

6位 藤澤 鐘吾(4) 5'10"06

総合1位 (6497点)

5番手でスタートを切ると、3、4番手の選手とともに集団を形成しました。1、2番

手の選手との差は徐々に広がっていきましたが、前半は堅実にペースを刻んでいきました。後半は、やや失速してしまい6、7番手の選手とともに集団を形成しました。ラスト200m で6番手に後退しましたが、ラスト100m では二連覇を確信し、応援席にガッツポーズを送る余裕の走りを見せ、5'10"06 で6位となりました。

結果、6497点で総合1位となり、見事二連覇を達成し全カレ出場を決めました。



写真：男子十種競技 1500m、  
藤澤のフィニッシュシーン

#### ☆ 選手より一言

無事に連覇できてほっとしています。今回は技術種目が良く安定した試合運びでしたが、体力不足が深刻でした。全カレについては全くの白紙状態ですが、より体系的な準備が必要です。集中することはもとより計画性を重視して過ごしたいと思います。

藤澤 鐘吾



写真：男子十種競技の表彰

### 女子 4×100mR 決勝

6位 53"33

[飛内茜 (3)・菊地亜加里 (3)・  
脇坂美穂子 (4)・酒巻貴子 (4)]

バトンパスのミスは見られませんでした  
が、やはり全体的に他の選手との走力差が顕著  
であり、5位の福祉大に大きく差をつけら  
れて 53"33 で 6位となりました。

他大学との圧倒的な差をどう埋めるかが  
今後の課題となりそうです。

### 男子 4×100mR 決勝

8位 43"42

[藤澤鐘吾 (4)・佐藤圭祐 (4)・  
八木洋光 (M1)・神林啓人 (4)]

第一走者の藤澤は、1500m の直後であっ  
たためか、本来の走りとはほど遠いものとな  
ってしまい、混戦から抜け出すことが出来な  
かったです。

第二走者の佐藤は、バトンを受け取った直  
後から激しい競り合いとなりました。しかし、

やや力んでしまいラストで競り負け、第三走  
者の八木へバトンを渡しました。

八木は、鬼気迫る走りで後続の選手を突き  
放しましたが、バトンを一度で渡すことがで  
きずに大きくタイムロスしてしまいました。

第四走者の神林は、バトンを受け取る際の  
ミスで他の選手から大きく遅れを取り、アン  
カー勝負で敗北し 43"42 で 8位となりまし  
た。

バトンパスのミスが大変悔やまれる結果  
となってしまいました。

### 男子 200m 準決勝

1組 8着 八木 洋光 (M1) 23"21(-2.5)

決勝進出を目指して、八木が 1組目に出場  
しました。

一番外側、9レーンからのスタートとなり  
ました。序盤は、得意のコーナー走を發揮し  
ましたが、徐々に内側から詰められてしま  
いました。コーナーを抜けた時点ですでに遅れ  
始めており、直線でもその遅れを取り戻すこ  
とができず 23"21(-2.5)で 8着となりました。

予選では上々の走りを見せただけに、決勝  
進出が叶わず非常に残念な結果となりまし  
た。

### 男子 400mH 決勝

4位 細川 淳一 (M2) 54"40

7位 柴田 智弘 (3) 56"44

細川と柴田が出場し、大量得点に大きな期  
待が寄せられました。

細川は、序盤から快調にペースを上げ、6  
～7 台目まで積極的に先頭争いを繰り広げ  
ました。ラストの直線でやや伸び足りませ  
んでしたが、54"40 で 4位となりました。終始  
積極的なレースで、「最後のインカレ」とい

う意気込みを感じさせる走りを見せました。

柴田は、細川とともに前半でスピードに乗りましたが、4台目あたりから徐々に遅れ始めました。7～8台目で動きがやや鈍くなりましたが、ラストの直線で意地を見せ、前方の選手を一人かわして56"44で7位となりました。

結果、二人で7点を獲得し、短距離種目では最高得点となりました。



写真：男子 400mH 決勝、先頭を争う細川と、それを追う柴田

#### 女子 5000m 決勝

6位 永井 瑞希 (4) 18'24"99

8位 大淵 真波 (4) 18'39"51

17位 小海 麻美 (2) 20'25"77

永井、大淵、小海の三選手が出場しました。

10000m 同様、スタートから福島大の古瀬選手が一人飛び出し、その後方に大集団が形成されました。永井と大淵は、集団の前方で全体をひっぱる展開となりましたが、小海は集団につくことができず、早くも離されてしまいました。大淵が3番手、永井が6番手につけて1000mを3'30"前後で通過すると、2～6番手の選手で集団を形成し始めました。その後大淵が4番手、永井が6番手で2000mを通過すると、ここで永井が集団からこぼれ

て8番手に後退してしまいました。中盤では、永井がやや持ち直したものの、大淵がペースダウンしてしまい、ラスト1000mのところでは永井が6番手、大淵が7番手となりました。その後、永井は失速を抑えて18'24"99で6位となりましたが、大淵は後方の選手にかわされ18'39"51で8位となりました。小海は、序盤の遅れを最後まで取り戻すことができず、レースが進むにつれて徐々に失速し、終始非常に厳しい展開となり20'25"77で17位となりました。

永井、大淵ともに本調子ではない中で、二人で4点を獲得し、女子長距離種目を上々の結果で締めくくることができました。



写真：女子 5000m、途中 1000m 通過直後の集団の様子

#### 男子 5000m 決勝

5位 大場 直樹 (3) 15'18"08

8位 齋藤 純 (4) 15'20"62

24位 小林 和也 (M1) 16'28"87

小林、齋藤、大場の三選手が出場しました。10000m に続いての大量得点となるか、注目が集まるレースでした。

400m を72"～73"で通過したところで、齋藤が集団の前方、大場が中ほど、小林が後方にそれぞれつけました。1000m を3'00"切るくらいで通過したころには、齋藤が集団の中ほど、大場が後方に下がる展開となりました。

集団は 2000m をおよそ 6'00" で通過し、その後小林が徐々にペースダウンしてしまいました。3000m を目前にして集団は崩壊し、三つの小集団に分かれました。齋藤と大場は 9~11 番手の第三集団に位置取り、前方の選手との差も広がって得点が厳しいように思われました。4000m を目前にして、大場が前方の選手に追いつき 8 番手に上がりましたが、齋藤は 10 番手のまま前との差をなかなか詰められませんでした。小林も単独走でペースダウンに歯止めがきかず、非常に苦しい展開となりました。大場は、ラスト 1000m で 6~8 番手争いを激しく繰り広げ、ラスト 100m では猛烈なスパートをかけてゴール目前で 5 番手の選手に追いつき、15'18"08 で 5 位となりました。齋藤も、ラストスパートは目覚ましく、大きく差をつけられていた 8 番手の選手を最後にかわし、15'20"62 で 8 位となりました。小林は、最後まで失速を抑えきれず 16'28"87 で 24 位となりました。

10000m に続いて齋藤と大場が得点しましたが、10000m の疲れもあってか満足しきれない結果となりました。

#### 女子 4×400mR 決勝

7 位 4'32"97

【菊地亜加里 (3) ・脇坂美穂子 (4) ・  
須藤彰子 (3) ・星朝香 (3)】

第一走者の菊地は、まずまずのスタートを切りましたが、すぐに内側の福島大に大きく差をつけられてしまいました。それでも、力むことなく 3 番手集団でホームストレートにさしかかりました。しかし、終盤でやや失速し、バトンパスもスムーズにいかず最下位となってしまいました。

第二走者の脇坂は、最下位でのスタートとなりましたが、終始焦らずペースを守りまし

た。順位を上げることはできなかったものの、落ち着いた走りで第三走者の須藤へバトンを渡しました。

須藤は、800m 専門ということでややスピードが足りないのか、前方の選手との差が徐々に広がってしまいました。広がる差にめげずに、ラストは粘りをみせました。

第四走者の星は、最下位がほぼ確定してしまった展開の中、諦めることなく力強い走りを見せました。結果、後半でやや力んで失速してしまい、4'32"97 で 7 位となりました。

4×100mR 同様、他大学に圧倒的な差をつけられ、終始厳しい展開となったレースでした。

#### 男子 4×400mR 決勝

8 位 3'24"54

【柴田智弘 (3) ・細川淳一 (M2) ・  
中嶋啓太 (M1) ・田中裕志 (4)】

第一走者の柴田は、快調なスタートを切ることができましたが、200m あたりでやや失速してしまいました。しかし、ラスト 100m を目前にしてなんとか立て直し、4、5 番手で第二走者の細川へバトンを渡しました。

細川は、下位集団でバトンを受けましたが、岩手大の前に出るなどして前半は積極的な走りを見せました。後半もしっかりと粘って第三走者の中嶋へバトンを渡しました。

中嶋は、前半こそ積極的に前を追って快調な走りだったものの、後半はスタミナ切れでホームストレートでも思うように伸びず、後方の選手にかわされながら第四走者の田中へバトンを渡しました。

田中は、7 番手あたりでバトンを受けると、前半はまずまずのペースで前を追いました。しかし、後半で 8 番手に落ち、動きも一気に鈍くなってしまいました。ラストは懸命に粘

って前を追いましたが、惜しくも届かず  
3'24"54で8位となりました。

## フィールド

### 男子棒高跳決勝

3位 白井 孝明 (3) 4m50

8位 藤澤 鐘吾 (4) 3m60

橋本耕太郎 (4) NM

藤澤、橋本、白井の三選手が出場しました。

まず、藤澤と橋本が3m60の試技からスタートしました。藤澤は、一回目でクリアしたものの、以降の試技をパスし、結果3m60で8位となり1点を獲得しました。一方、橋本は3m60をクリアすることができず、記録を残すことができませんでした。

白井は、3m80の試技からスタートし、途中でいくつかの試技をパスしながら順調にクリアしていきました。しかし、4m30の試技では、一回目と二回目をミスしてしまい、後がなくなってしまいました。それでも、三回目でなんとかクリアし、続く4m40の試技を一回目でクリアすると、いよいよ大学ベストの4m50の試技に挑戦することになりました。結果、三回目の試技で4m50をクリアし、3位となりました。

白井の大学ベスト樹立と3位入賞によって、充実した結果となりました。また、自身の持つ東北大歴代3位の記録を4m40から4m50に更新しました。次回は、自己ベストの更新を目指し、更なる活躍に期待したいところです。



写真：男子棒高跳の表彰

### 男子十種競技走幅跳

1位 藤澤 鐘吾 (4) 6m97(+0.7)

一回目の跳躍で6m97(+0.7)を記録し、他の選手を一気に突き放しました。二回目以降の跳躍に期待がかけられていましたが、二回目、三回目ともに惜しくもファールとなりました。

結果、6m97(+0.7)で2位の選手に約30cm、60点以上の差をつけて1位となりました。

### 男子円盤投決勝

10位 藤澤 鐘吾 (4) 32m64

12位 今泉 卓真 (3) 30m81

藤澤、今泉が出場し、得点が確実視されていた種目でした。

藤澤は、一投目でタイミングがうまく合わず、32m64とやや物足りない投擲となりました。以降の試技はファールとなってしまう、残念ながらベストエイトには進出できませんでした。

今泉も本領を発揮することができず、二投目での30m81の記録しか残すことができず、まさかのベストエイト圏外という結果に終

わってしまいました。

投擲陣は、好調なスタートを切ることができませんでしたが、この結果にくじけることなく以降の各競技に臨んでいきました。

### 女子七種競技走高跳

#### 2位 菊地亜加里 (3) 1m45

1m30の試技からスタートし、1m40の試技で一回のミスがあったものの、続く1m45の試技を一発でクリアしてみせ、大学ベストの記録で2位となりました。

結果、自身の持つ東北大歴代3位の記録を1m41から1m45に更新しました。

### 男子十種競技砲丸投

#### 1位 藤澤 鐘吾 (4) 11m43

一投目から11m43を記録し、他の選手の追従を許しませんでした。以降、二投目は11m32、三投目はファールとなりましたが、11m43で1位となりました。

出場選手中で唯一11m台の投擲を見せ、見事な貫禄勝ちでした。

### 男子三段跳決勝

#### 7位 長谷川翔平 (M1) 14m39(+1.9)

染谷 拓 (4) NM

#### 棄権 永井 雅人 (D1)

得点が期待される長谷川と、最近の好調ぶりが光る染谷が出場しました。

先日、走幅跳で自己ベストを出したばかりの好調な染谷でしたが、惜しくも記録を残すことはできませんでした。

長谷川は、二回目の試技で14m05(+0.3)を記録して8位でベストエイト進出を決めると、六回目の試技で14m39(+1.9)を記録し、

一つ順位を上げて7位となりました。

男子棒高跳に続いての得点となり、跳躍パートの活躍で東北大はさらに盛り上がりました。

### 女子七種競技砲丸投

#### 7位 菊地亜加里 (3) 7m14

一投目から順に7m10、7m14、7m09と終始実力を発揮しきれずに、残念ながら7位となりました。

ここで他の選手との差がついてしまい、苦しい展開となってしまいました。

### 男子十種競技走高跳

#### 1位 藤澤 鐘吾 (4) 1m86

1m70の試技からスタートし、以降1m83までの試技を全て一発でクリアし、好調ぶりをアピールしました。1m86の試技には、藤澤も含めて三人の選手が挑戦しました。他の二選手がクリアできずに終わった一方で、藤澤は三回目でクリアし、見事1位となりました。

さらに、1m89の試技にも挑戦しましたが、惜しくもこれをクリアすることはできませんでした。

### 女子七種競技走幅跳

#### 4位 菊地亜加里 (3) 4m78 (+0.8)

一日目を4位で折り返した菊地は、一回目の試技で4m78(+0.8)とまずまずの記録を残しましたが、以降は惜しくもファールが続き、結果4位となりました。

まだまだ表彰台が狙える展開で、続くやり投と800mに注目が集まりました。

### 男子十種競技円盤投

#### 1位 藤澤 鐘吾 (4) 34m77

一投目は 29m00 と調子はずしてしまいましたが、以降 32m76、34m77 とうまく調子を上げていくことができ、見事 1 位となりました。

十種競技もいよいよ終盤にさしかかり、二連覇が見えてくる展開となりました。

### 男子十種競技棒高跳

#### 3位 藤澤 鐘吾 (4) 3m80

3m40 の試技からスタートすると、3m80 までの試技を全て一発でクリアし、軽々と自己ベストを更新しました。惜しくも 3m90 を跳ぶことはできませんでしたが、堂々の 3 位となりました。

集中的に練習した成果が十分に発揮されたようで、文句なしの結果となりました。

### 女子七種競技やり投

#### 2位 菊地亜加里 (3) 30m65

一投目で 27m52 を記録して腕慣らしをすると、二投目で 30m42 の自己ベストを記録しました。さらに、三投目で 30m65 とすぐさま自己ベストを更新し、2 位となりました。

結果、自身の持つ東北大歴代 4 位の記録を 29m78 から 30m65 に更新しました。

### 男子十種競技やり投

#### 2位 藤澤 鐘吾 (4) 52m10

一投目は 47m95 と、ややタイミングが合わなかった様子でしたが、二投目で 52m10 を記録し 2 位となりました。

残すは 1500m のみとなりましたが、この

時点で二連覇はほぼ確実となりました。

### 男子砲丸投決勝

#### 7位 今泉 卓真 (3) 12m71

投擲 PC・今泉のみの出場となりました。

円盤投での不調が心配されましたが、二投目で 12m38 を記録し、堅実にベストエイト進出を決めました。結果、五投目の試技で記録した 12m71 で 7 位となりました。

12m71 という自己ベストの投擲によって、見事東北大歴代 3 位にランクインしました。

### 女子三段跳決勝

#### 7位 野崎 莉代 (M2) 9m51(+2.5)

#### 飛内 茜 (3) NM

野崎と飛内が出場しました。

飛内は、三回とも距離が足りずに記録を残すことができませんでした。

一方の野崎も一回目、二回目とファールに終わってしまい、厳しい展開となりました。しかし、三回目の試技で 9m51(+2.5) を記録することができ、以降の試技に望みをつなげました。その後、五回目で 9m37(+0.9)、六回目で 9m37(+1.3) を記録し 7 位となり、2 点を獲得しました。

### 男子走高跳決勝

#### 7位 岡本 聖司 (4) 1m85

#### 永井 雅人 (D1) NM

永井と岡本が出場し、得点獲得に期待がかけられました。

二人とも 1m85 の試技からスタートしましたが、惜しくも永井はこれをクリアできず、記録を残すことができませんでした。

一方、岡本は二回目の試技で 1m85 をクリ



アし、自己ベスト更新を目指して 1m90 の試技に挑戦しました。残念ながら 1m90 をクリアすることはできませんでしたが、7 位となり 1.5 点を獲得しました。

### 男子やり投決勝

5 位 杉本 和志 (1) 56m88  
棄権 落合 裕規 (3)

スーパールーキー・杉本が出場し、得点は確実なものとなっていました。

一投目から 54m77 と上々な記録を残すと、三投目の 56m88 の記録でベストエイトに進出しました。以降、五投目で 55m12、六投目で 55m09 と安定した投擲を見せ、結果 56m88 で 5 位となりました。

56m88 の記録で東北大歴代 2 位にランクインする快挙となりましたが、真の実力はまだまだ発揮しきれていないようなので、今後部記録の樹立に大きな期待がかかります。

### ☆選手より一言

今回の東北インカレは、大学に入学してから初の公式戦でした。まだ、全盛期の力は戻っておらず、緊張や不安はありましたが、応援の声に支えられて、やり投で 5 位に入賞することができました。応援席とやり投のピットは真逆の位置でしたが、応援の声が響いてきて、とても勇気付けられました。本当に感謝しています。

まだ、記録的には満足できるものではありませんでしたので、まずは全盛期時代の自分の記録を抜けるように体を作り直して頑張っていきたいと思います。

杉本 和志

### 女子走幅跳決勝

11 位 野崎 莉代 (M2) 4m26(+1.2)  
12 位 飛内 茜 (3) 4m14(+0.6)  
13 位 酒巻 貴子 (4) 4m11(+1.6)

野崎、酒巻、飛内の三選手が出場しました。

三段跳で入賞した野崎は、走幅跳での活躍も期待されましたが、ベストエイト進出争いには絡むことができませんでした。酒巻、飛内も自己ベストに近い記録を残したものの、残念な結果に終わってしまいました。

頑張りもむなしく、他の選手に大きく差がつけられてしまう厳しい結果となりました。



写真：女子走幅跳、野崎の助走の瞬間

### 男子走幅跳決勝

12 位 永井 雅人 (D1) 6m70 (+1.3)  
17 位 落合 裕規 (3) 6m29(+1.7)  
25 位 染谷 拓 (4) 5m85(+1.6)

永井、染谷、落合の三選手が出場しました。

永井は、一回目の試技でファールとなったものの、二回目で 6m59(+1.9)、三回目で自己ベストの 6m70(+1.3) を記録し、12 位となりました。落合は、一回目で 6m23(+2.5)、二回目で 6m25(+2.9) と安定した跳躍を見せ、三回目で自己ベストの 6m29(+1.7) を記録し、17 位となりました。染谷は、先日の宮城春季に続く自己ベストが期待されましたが、惜

しくも自己ベストには届かず 5m85(+1.6)で 22 位となりました。

永井と落合が自己ベストを更新し、良い結果となりましたが、ベストエイト進出には及びませんでした。

### 男子ハンマー投決勝

#### 8 位 今泉 卓真 (3) 46m60

砲丸投に続いて入賞を目指し、今泉が出場しました。

一投目で 46m58 を記録したものの、続く二投目は 44m67、三投目は 44m73 となかなか本領を発揮できないままベストエイトに進出しました。

四投目で 43m69、五投目で 46m13 と、一投目の記録を更新できませんでしたが、六投目でようやく 46m60 を記録し、8 位となりました。

なんとか得点を挙げられたものの、悔いの残る結果となってしまいました。

## #自己記録更新者一覧(4/21~5/18)

### <男子>

#### ・200m

中嶋 啓太(M1) 23"41(風：-1.7) (4/27 宮城県春季陸上競技選手権大会)

#### ・1500m

鈴木 雄輔(3) 4'28"69 (5/3 平成20年度第2回福島県中長距離競技会)

本間 亮太(2) 4'11"34 (5/16 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

早坂 達也(2) 4'11"58 (5/16 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

渡辺 貴哉(4) 4'18"95 (5/16 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

#### ・10000m

大場 直樹(2) 31'41"51 **部歴代9位**(5/16 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

齋藤 純 (4) 31'51"72 **部歴代11位**(5/16 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

#### ・110mH

一ノ倉 聖(2) 16"07(風：+1.6) (5/17 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

#### ・400mH

柴田 智弘(3) 56"06 **部歴代17位** (5/17 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

#### ・ハーフマラソン

鈴木 雄輔(3) 1° 18'54" (5/11 第18回仙台国際ハーフマラソン選手権大会)

#### ・走幅跳

染谷 拓 (4) 5m91(風：+1.1) (4/27 宮城県春季陸上競技選手権大会)

永井 雅人(D1) 6m70(風：+1.3) **部歴代18位**  
(5/18 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

落合 裕規(3) 6m29(風：+1.7) (5/18 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

#### ・棒高跳

藤澤 鐘吾(4) 3m80 **部歴代15位** (5/17 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

#### ・砲丸投

今泉 卓真(3) 12m71 **部歴代3位** (5/17 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

### <女子>

#### ・やり投

菊地 亜加里(3) 30m65 **部歴代4位** (5/17 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

#### ・七種競技

菊地 亜加里(3) 3545点 **部記録** (5/16、17 第61回東北学生陸上競技対校選手権大会)

## #副務からのお知らせ

<OB通信の電子メールによる配信について>

OB通信の電子メールによる配信を実施することが平成19年度秋季三秀総会において再承認されました（平成15年度秋季三秀総会においてすでに承認されていました）。電子メールによる配信を実施する理由は以下のとおりです。

- ① 年間30万円以上かかる郵送費を削減できる
- ② 迅速に情報・連絡事項を送信可能
- ③ 送信回数に制限がなく、より頻繁に配信可能
- ④ データ類（画像、動画など）も配信可能

電子メールでの配信をご希望の方は、以下のメールアドレスに氏名、卒業年度を明記し、その旨をお知らせください。後日、副務より確認のメールをお送りします。お知らせをいただかなかった方には、引き続き紙面で配信いたします。

☆OB通信電子メール配信希望の連絡先

Mail:hukumu\_tohoku\_ob2sin@yahoo.co.jp

## #今後の予定

6月6、7、8日           2008 全日本学生陸上競技チャンピオンシップ（平塚）  
6月28日                東北大学対北海道大学定期戦（岩見沢）

競技力の高い選手が集まるチャンピオンシップでは、毎年レベルの高い争いが繰り広げられます。今年も、東北大からは数名が出場する予定です。

恒例の北大戦は、七大戦が宮城で開催される関係で今年も北海道での開催となります。昨年は、トラックの部では僅差で負けてしまったものの、フィールドの部で圧勝し、総合の部で北大を下すことができました。今年も、両部門を制覇しての完全勝利を目指して戦ってまいりますので、応援よろしく願いいたします。

## #編集後記

お伝えしてきたとおり、今回の東北インカレでは選手たちの様々な活躍が見られました。その一方で、一步及ばずに残念な結果に終わってしまった選手たちもいました。また、他大学との力の差を痛感させられた競技もありました。素晴らしい結果を残した選手、残念ながら良い結果を残せなかった選手、そして競技に出場せずに選手たちの応援に専念した部員、それぞれがそれぞれの思いを胸に刻み、今後の対校戦に向けてチームの結束力を強めていきます。

さて、前号の OB 通信より電子メール配信がスタートしました。前号の発行以降、電子メールでの配信を希望される方がさらに増え、現在、約 250 名の OB・OG の方々より電子メールでの配信希望を受けております。引き続き、電子メール配信の希望を受け付けておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

文責 副務 鈴木 雄輔